



土 壤

土の色が異なるのはなぜ?

みなさんは、絵で土を描くとき、どんな色を使いますか?

黒? 茶色? 黄土色? 赤茶色? それとも???

それぞれ、土を思い浮かべたり、実物の土を見たりして、さまざまな色を使っているでしょう。



人は、絵を描くとき、知らず知らずのうちに、自分の住んでいる所や生まれ育った場所の土の色を使っています。あなたのまちには、どんな色の土がありますか?

旅行などで違う場所へ行くと、土の色も違うのはなぜでしょうか。それは、「土」というものがどうやってできたかを考えるとわかります。

土ができるのは、とても長い時間がかかります。土の材料は、岩が細かく砕けたものなどですが、その岩の種類が違っていると、できてくる土も違うものになります。

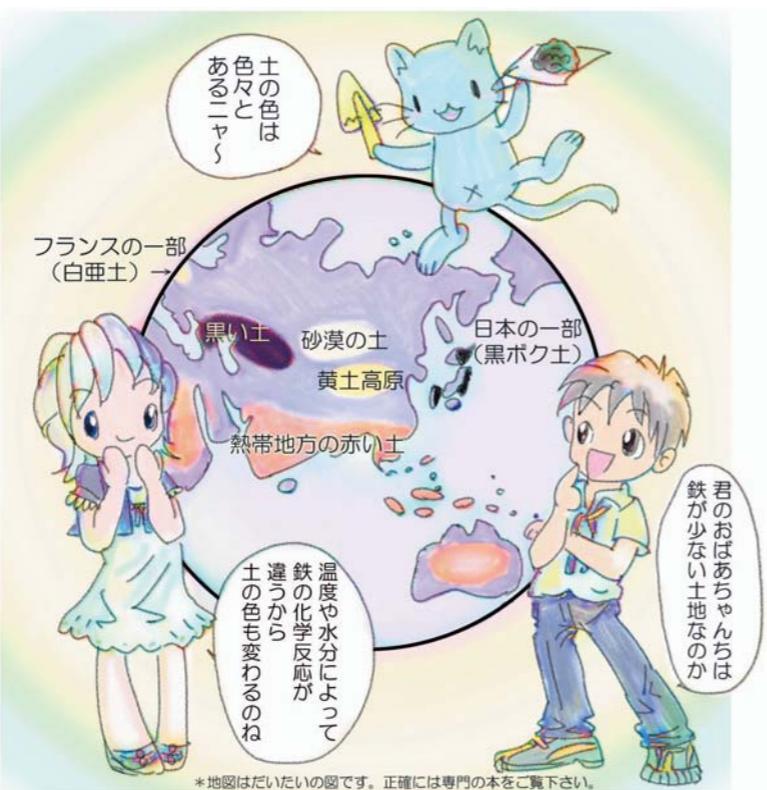
その場所が暑いか寒いか、雨が多いか少ないかによっても、

土のうえに生えている植物の種類によっても、違った土ができます。このように、場所が変われば環境条件が違っているので、その影響で場所によって違う土ができるのです。違うのは色だけではなく、手触りやにおいなども違ってしまつが、色の違いは、いちばんわかりやすい土の特徴といえるでしょう。

有機物ということになります。有機物の量が多いところでは、黒い土ができるのです。このように、土の色の違いから、その土ができてきた長い歴史を想像するのは楽しいことだと思いますか?

土の色を決める主人公は、

鉄です。例えば、赤や黄色の土は、鉄のさびの色と同じもので、暖かい気候でできた土にみられます。同じ鉄が、水にいつもつかっているような場所では青い色の土をつくりまします、鉄がなくなってしまった土は、色が抜けて白っぽい色になります。



*地図はだいたいの図です。正確には専門の本をご覧下さい。